

令和5年度 中学校学習指導要領実施状況調査について（結果のポイント）

調査の概要

速報版

【目的】

中学校学習指導要領の次期改訂に資するため、今次改訂の改善事項を中心に、各教科等の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況について調査研究を行い、検討の基礎となる客観的データ等を得るとともに、教育課程の基準に係る課題の有無及びその内容等を検証・総括する。

【時期、対象学年及び教科等】

○調査時期：調査①令和5年11月1日（水）から令和5年12月22日（金）

（音楽、美術、技術・家庭、保健体育、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動）

調査②令和6年1月22日（月）から令和6年3月19日（火）

（国語、社会、数学、理科、外国語（英語）、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動）

○調査対象：国公立及び私立中学校 1,356校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程含む） ※全学校の約13.2 %、無作為抽出
実施生徒数（延べ） 159,150人

○内容：各教科で、①今回の改訂の基本方針に関する事項、②各教科等の主な改善事項（今回の改訂で新設された事項、学年及び学校種を超えて移行した事項）、③従来、課題とされている事項の視点に基づくペーパーテスト調査を実施するとともに、一部教科で実技調査を実施。あわせて、生徒、教師、学校長を対象とした質問調査をオンライン形式にて実施。

- ・ペーパーテスト調査：第1～3学年 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、保健体育（体育分野、保健分野）、外国語（英語）
- ・質問調査（学校）（生徒、教師）：第1～3学年 特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動
- ・実技調査：第2学年 保健体育（体育分野）、第3学年 美術、技術・家庭（家庭分野）、外国語（英語）

（主なポイント）

各教科のペーパーテスト調査の結果から

- 必要な情報を資料から読み取ることについては成果が見られるが、読み取った情報を整理してまとめることや、そこから自分の考えを表現すること、情報を基にその原因や理由を説明することについては課題があると考えられる。
- 基礎的・基本的な知識の理解は進んでいるが、知識と関連付けて表現することや、分析的・総合的に物事を捉えることについては課題があると考えられる。

特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動の質問調査の結果から

- 基本的に多くの設問において生徒の肯定的な回答の割合が高く、これらの教科・活動等に対する生徒の高い意欲がうかがわれる。

ペーパーテスト調査等の概要

● 調査実施校：中学校 1,356 校 実施生徒数 159,150人（延べ数）

※1教科1問当たり、3,600人程度の調査結果を得ることができるよう、調査対象を無作為抽出した。

● データを見るにあたって

○「1. 主な改訂のポイント」「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」「3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性」「4. 調査問題例」の4構成と「4」に対応する問題を別紙（問題例）で添付。

○「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」中の赤字部分は「相当数の生徒ができている」もの、青字部分は「課題があると考えられる」もので、下線が付されているものは、「4. 調査問題例」及び別紙において問題例（質問項目例）が示されている。

※実技調査については、対象教科（美術、技術・家庭（家庭分野）、保健体育（体育分野）、外国語（英語）のペーパーテスト調査を実施する抽出校の中から調査を実施する学校を抽出。（1教科当たり350人程度：10校程度）

令和5年度 中学校学習指導要領実施状況調査の結果について（社会）

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 単元を見通して、社会的な見方・考え方を働かせる課題（問い）を設定し、課題を追究したり解決したりする活動の充実。
- 基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得。
- 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成。
- 主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題（問い）を主体的に解決しようとする態度の育成。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 学習の過程に関しては、課題を追究する場面で、**多面的・多角的に考察すること**に一部課題がある。課題を解決する場面で、**学習成果をまとめること**には一定の成果が見られる。
- 知識を相互に関連付けたり組み合わせたりして理解することや、社会における様々な場面で活用できる概念等に関する知識を獲得すること**に一部課題がある。**必要な情報を資料からの確に読み取ること**には一定の成果が見られるが、**読み取った情報を課題解決に向けて、整理してまとめること**には一部課題がある。
- 社会的事象の相互の関連を多面的・多角的に考察すること**に一部課題がある。**社会に見られる身近な課題の解決に向けて構想（選択・判断）すること**に一定の成果が見られるが、**社会に見られる課題を把握して公正に判断すること**に一部課題がある。
- 社会に参画することを視野に入れてよりよい社会をつくろうとすること**には一定の成果が見られるが、**社会の現状を把握して、社会生活に生かそうとすること**に一部課題がある。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・学習意欲につながる課題把握、課題追究、課題解決などが一連となる学習の過程の一層の工夫。
 - ・社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を学習した結果、習得した知識を活用して、概念等に関する知識を獲得する活動の充実。必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を読み取り、整理してまとめたりするなどの学習活動の充実。
 - ・単元など内容のまとまりを踏まえ、生徒が社会的な見方・考え方を働かせる課題（問い）の一層の工夫。地理的分野や歴史的分野で育成した知識や技能、思考力等を活用した、公民的分野での社会で見られる課題設定や課題解決への取組の充実。
 - ・課題解決の見通しをもつ活動や、次の学習や社会生活とつながるように、自分の学び方や調べ方を振り返る活動の工夫。

4. 調査問題例（ペーパーテスト調査）

「必要な情報を資料からの確に読み取ること」の問題例（別紙1参照）

- 社会的事象等について調べまとめる技能の確実な習得を重視して、複数の情報を結び付けて読み取る技能について、「知識・技能」を測る観点から作成した。
- 同一地域の課題を追究するために収集した地形図と防災マップの情報を読み取って関連付けて調べる問題を出題。

【通過率 77.8%】

「読み取った情報を課題解決に向けて、整理してまとめること」の問題例（別紙2参照）

- 社会的事象等について調べまとめる技能の確実な習得を重視して、情報を課題解決に向けて整理してまとめる技能について、「知識・技能」を測る観点から作成した。
- 問題文に示された「仮説」を踏まえ、就学率の推移を示すグラフと法令資料から読み取った情報を課題解決に向けて、整理してまとめる問題を出題。

【通過率 42.2%】

「社会的事象の相互の関連を多面的・多角的に考察すること」の問題例（別紙3参照）

- 社会的事象の相互の関連を多面的・多角的に考察することを重視して、「思考・判断・表現」を測る観点から作成した。
- 中部地方の自然環境や産業の地域的特色に関する知識を基に、東海地方における人口集中の要因について多面的・多角的に考察する問題を出題。

【通過率 39.7%】

「社会に見られる身近な課題を把握してその解決に向けて構想（選択・判断）すること」の問題例（別紙4～5参照）

- 「社会的な見方・考え方を働かせる『問い』を設定し、課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること」を重視して、「思考・判断・表現」を測る観点から作成した。
- 「救急車の有料化に賛成・反対」について、希少性、効率と公正などに着目して選択した2つの資料を基に考察、構想し、表現する問題を出題。

【通過率 74.7%】

「必要な情報を資料からの的確に読み取ること」の問題例

速報版

社会 第2学年 C(1)「地域調査の手法」
地域の異なる情報を比較、関連付けて読み取る問題

- 同一地域の課題を追究するために収集した地形図と防災マップの情報を読み取って関連付けて調べる問題。
このような問題から、社会的事象に着目して、必要な情報を的確に読み取る力の育成の状況について測る。

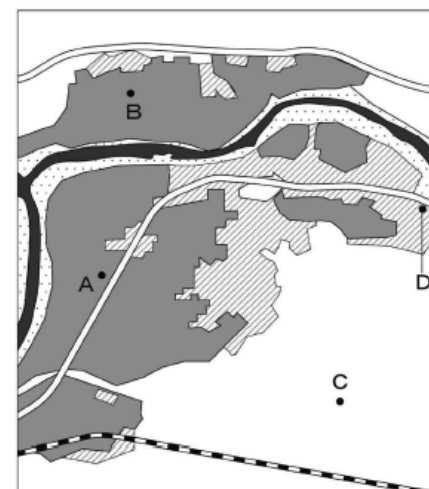
(2) 正春さんは、祖母の住む町を流れる河川（川内川）がたびたび氾濫を起こしていることを知り、この地域について調査しました。調査で手に入れた地形図と防災マップを見比べて分かったこととして、最も適切なものはどれですか。あとの1から4の中から1つ選びなさい。(2)

地形図



(国土地理院発行2万5千分の1地形図「加久藤」により、便宜上縮尺を拡大している)

防災マップ（地形図の域内）



- 水深0m以上～1m未満の浸水想定区域
- 水深1m以上の浸水想定区域
- 川内川の河川敷
- 川内川 道路 JR線

(国土交通省川内河川事務所作成による)

- 1 Aの近くには221mの高さの場所があり、防災マップでも浸水想定区域の対象となっていない
- 2 Bの地点は、防災マップで水深1m以上の浸水想定区域として設定されており、周辺地域はおおむね田となっている
- 3 Cの近くには古墳があり、現在は河川の流路が変わるなどして「川内川」の河川敷になっている
- 4 Dの地点は、防災マップでも浸水想定区域の対象とはなっていないことから、付近一帯に集落が形成されている

【通過率 77.8 %】

「読み取った情報を課題解決に向けて、整理してまとめること」の問題例

速報版

社会 第2学年 C(1)「近現代の日本と世界」
グラフと法令資料から読み取った情報を、課題解決に向けて整理してまとめる問題

○問題文に示された「仮説」を踏まえ、就学率の推移を示すグラフと法令資料から読み取った情報を課題解決に向けて、整理してまとめる問題。
このような問題から、課題解決への見通しを持って情報を適切に取り取り、考察に必要な情報として整理しまとめる力の育成の状況について測る。

(1) まひろさんは、次の資料 1 の学制（1872 年公布）を読み、その影響について、下の仮説を考えました。しかし、その後、下の資料 2 と資料 3 を見つけて仮説の検討を行いました。あとの①と②の問題に答えなさい。

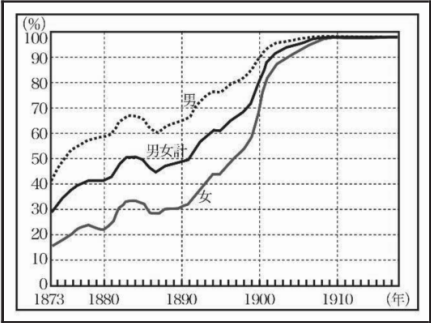
資料 1 明治時代の学制序文（抜粋）

文部省で学制を定め、今後は身分を問わず、必ず村に不学の家がなく、家に不学の人がいないことを目標とする。

まひろさんの仮説

明治政府は、学制を公布することで、国民全員を小学校に通わせて、近代の日本を支える人材を育成することを実現した。

資料 2 義務教育就学率の推移



資料 3 改正小学校令（1900 年）の一部（意識している）

「これまで3年から4年とされていた義務教育を4年に統一する」
「学齢に達した児童の保護者は就学期間の初めから終わりまで、児童を就学させる義務を負う」
「市町村立の尋常小学校(義務教育の小学校)は今後授業料を徴収しないこととする」
(原文を意識)

仮説の検討

資料 2 から、学制が出された直後は就学率が 程度で、まだ国民全員が通う状況には、ほど遠いものであったと考えられる。その後、1900 年頃に 8 割以上の国民が小学校に通うことになったことが分かる。その理由は、資料 3 から であることが考えられる。
つまり、 と考えられるため、仮説の修正が必要である。

① 仮説の検討中の 、 に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものを、次の 1 から 4 の中から 1 つ選びなさい。(7

	ア	イ
①	3 割	授業料の負担がなくなったため
2	3 割	小学校が義務教育となったため
3	5 割	授業料の負担がなくなったため
4	5 割	小学校が義務教育となったため

【通過率 42.2%】

「社会的事象の相互の関連を多面的・多角的に考察すること」の問題例

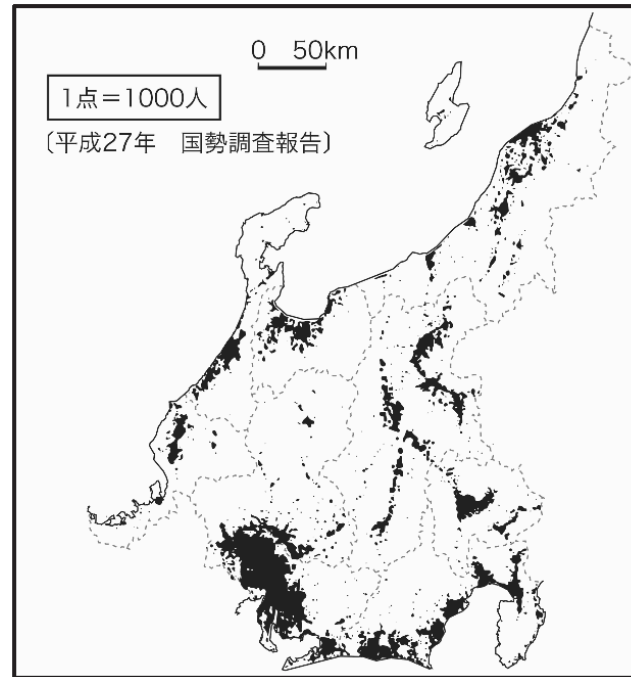
社会 第2学年 C(3)「日本の諸地域」

日本の諸地域における中核となる事象の成立条件を多面的・多角的に考察する問題

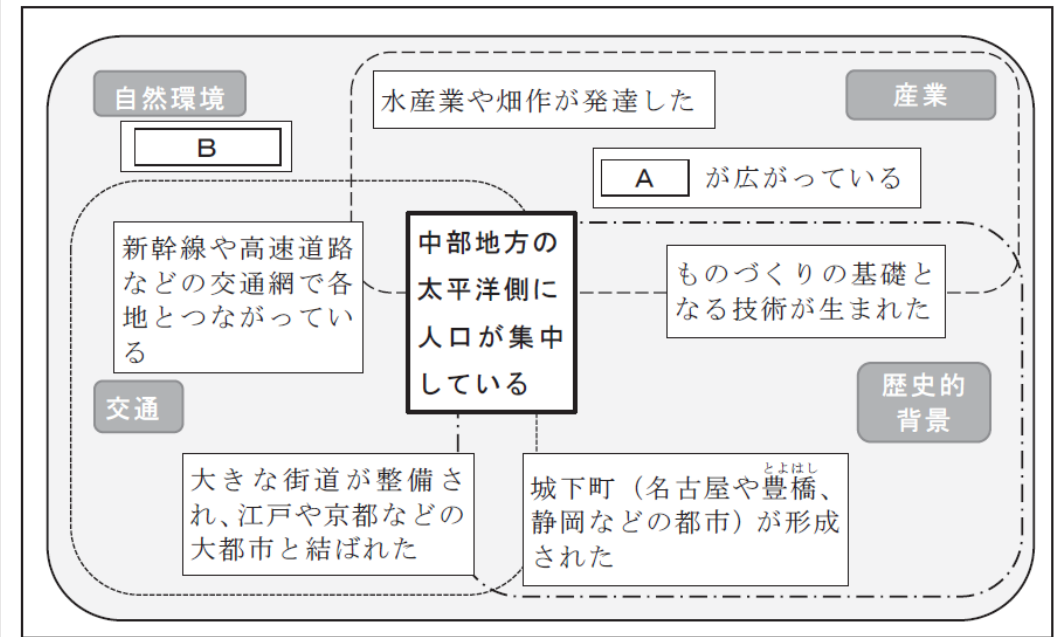
○中部地方の自然環境や産業の地域的特色に関する知識を基に、東海地方における人口集中の要因について多面的・多角的に考察する問題。
 このような問題から、諸資料を基にして社会的事象の相互の関連を多面的・多角的に考察する力の育成の状況について測る。

- ② 良秋さんは地図2を見て、中部地方の太平洋側に人口が集中している背景について、授業で学んだことを基に考察し、図にまとめました。図中の **A**、**B** に当てはまる語句の組合せとして最も適切なものはどれですか。下の1から4の中から1つ選びなさい。(22

地図2 中部地方の人口分布



図



	A	B
1	工業地帯や工業地域	広い平野が広がり、雪が少ない
2	工業地帯や工業地域	標高の高い高原が広がり、夏涼しい
3	果樹園	広い平野が広がり、雪が少ない
4	果樹園	標高の高い高原が広がり、夏涼しい

【通過率 39.7%】

「社会に見られる身近な課題を把握してその解決に向けて構想（選択・判断）すること」の問題例

速報版

社会 第3学年 B(2)「国民生活と政府の役割」

市場の働きに委ねることが難しい問題に関して、希少性、効率と公正などに着目して、多面的・多角的に考察、構想し、表現する問題

- 「救急車の有料化に賛成・反対」について、希少性、効率と公正などに着目して、選択した2つの資料を基に考察、構想し、表現する問題。
このような問題から、社会に見られる身近な課題を把握してその解決に向けて構想（選択・判断）する力の育成の状況について測る。

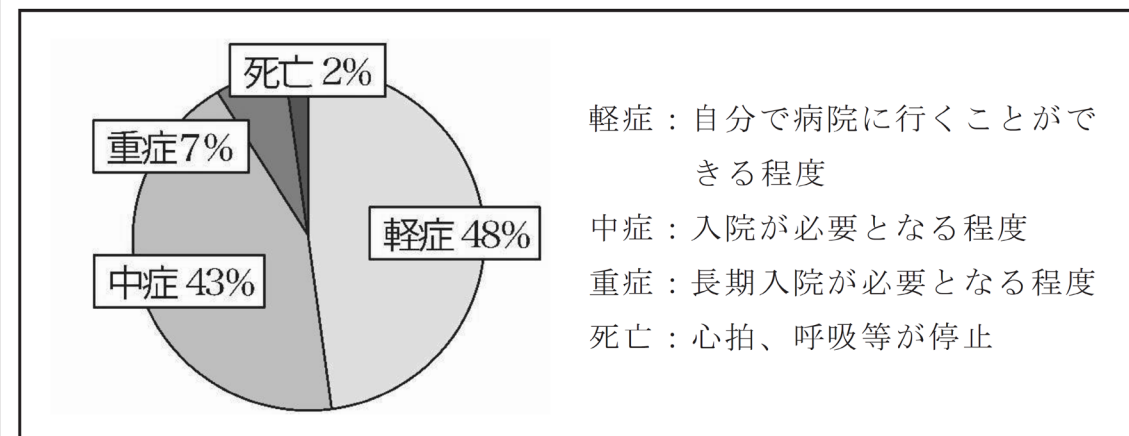
- (3) 次の〈会話文2〉から、あなたは「救急車の有料化に賛成・反対」について、どちらを選びますか（どちらを選んでも構いません）。選んだ理由を効率や公正に着目して書きなさい。その際、あとの〈資料A〉から〈資料D〉の中から、2つの資料を使用しなさい。なお、あなた自身が選択した立場と、2つの資料が分かるように、解答用紙に○を書きなさい。(9)

〈会話文2〉

春男：救急車の有料化に賛成か、それとも反対か、これから自分の判断をまとめて書いてみます。

夏子：授業で学習したように、効率や公正に着目して判断するといいですね。

〈資料A〉X県で救急車で運ばれた人の傷病の程度



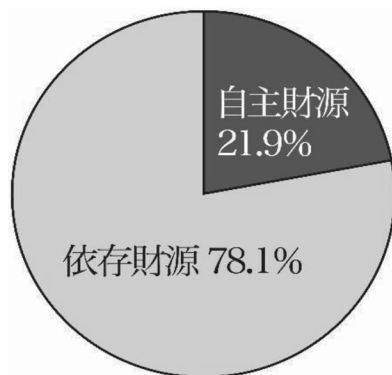
〈資料B〉救急車を呼ぶときにかかる費用が与える影響

救急車を呼ぶときにかかる費用が、ニューヨーク（アメリカ）では約50,000円、ミュンヘン（ドイツ）では約67,000円と高額なため、経済的に豊かではない人は救急車を呼ぶことをためらい、やめることもある。

一方、日本は無料のため、経済力に関係なく誰でも呼ぶことができると考えられる。

「社会に見られる身近な課題を把握してその解決に向けて構想（選択・判断）すること」の問題例（続き）

〈資料 C〉 X 県各市町村の令和 4 年度歳入の平均

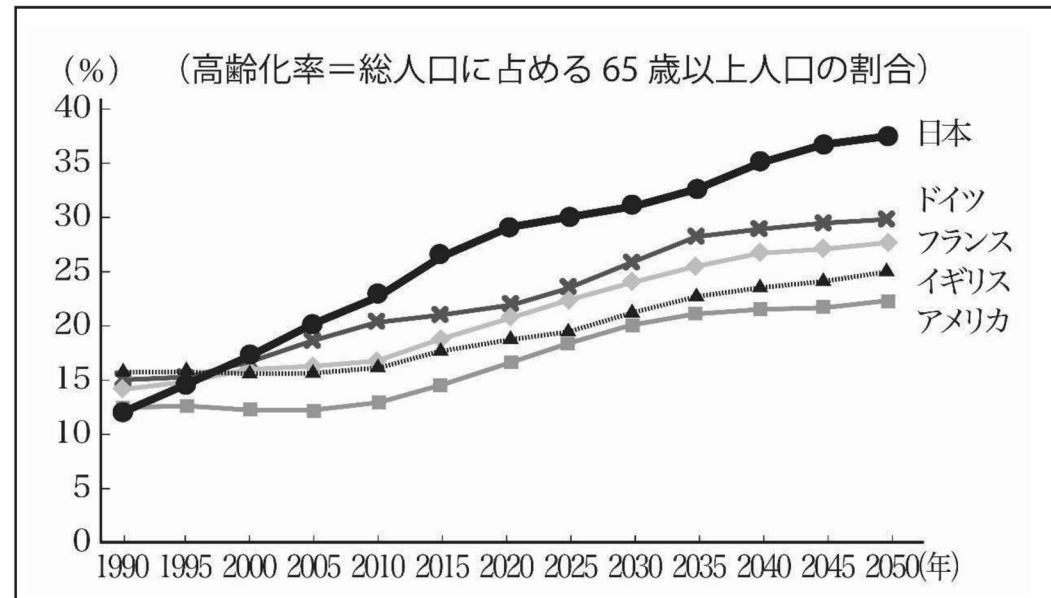


自主財源…地方公共団体で自主的に集めることができる財源

依存財源…国や都道府県から交付されたり、割り当てられたりする財源

【通過率 74.7%】

〈資料 D〉 各国の高齢化率の推移（予測値を含む）



(財務省資料より作成)

(正解例 1)

有料化に賛成 資料 A と資料 B を選択

現状では、軽症の人が半数近くいて効率が悪い。また、経済力に関係なく誰でも呼べる程度の金額にして公正（平等）さを保つことはできると考えるから。

(正解例 2)

有料化に反対 資料 B と資料 D を選択

経済力に関係なく誰でも呼べるのは公正（平等）だし、さらに高齢化することで救急車を呼ぶ機会も増えると考えられるから。